

ダニアレルギー原因物質

新型樹脂で抑制

学・発
積水大が開
阪大



大阪大学と積水化学工業は、ダニによるアレルギーの原因となるたんぱく質の働きを抑える新型の樹脂を共同開発した。ダニアレルギーの症状を緩和するとされる製品に現在使われている樹脂に比べて、百分の一の量で同等の効果があつた。寝具、衣類、エアコンのフィルターなどに利用できるとみている。二―三年後の実用化を目指す。

大阪大学工学研究科の宇山浩教授らが開発したのはフェノール樹脂の一種。材料となる有機化合物の高分子を西洋ワサビに含まれる「ペルオキシダーゼ」という酵素で重

合させて高分子の樹脂にした。

この樹脂をアレルギーの原因たんぱく質と溶液中で反応させたところ、従来の樹脂の百分の一の量で、たんぱく質の働きを抑制できることを確認した。

カーペットや空気清浄機のフィルター、衣料などにこの樹脂を利用すれば、アレルギーの原因となるたんぱく質の働きを抑えることが可能。研究グループは「せき、くしゃみ、鼻水といったアレルギーの症状を緩和できるのではないかと期待している。今後、樹脂を溶かす方法などを開発して、繊維などに混ぜやすくする。二〇〇三年の厚生労働省の調査によると、日本人の三人に一人はアレルギー症状がある。